



静岡市長
小嶋善吉

祝辞

新・静岡商工会議所の誕生
誠におめでとございます。

静岡商工会議所及び清水商工会議所の合併、新商工会議所の設立に長年にわたり御尽力されました役員の皆様をはじめ、1万1千人を超える会員の皆様並びに職員の皆様には改めて敬意を表する次第であります。

また、会員数で全国10番目の規模となるばかりでなく、多様な産業からなる新しい商工会議所が誕生したことで、本市産業が更なる発展を遂げることを大いに期待するところがあります。

本市におきましては、平成の大合併の先駆けとなる平成15年の静岡市と清水市の合併以降、新市の融合と二体化に努めてきたところであり、特に、静清合併後の大きな課題であった清掃工場の建設をはじめ、水の相互利用、公立の保育園・小中学校の耐震化など、

安全・安心な生活の確保に力を注いできたところであり、これらについては、平成22年度中におおむね完了することとなります。

さて、我が国経済は、アジア向けの輸出が増加していることなどにより持ち直しがみられるものの、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にあるとされています。今後の先行きについては、海外経済の改善や緊急経済対策の効果などを背景に、持ち直し傾向が続くことが期待される一方、雇用情勢の一層の悪化や海外景気の下振れ、デフレの影響などが懸念されているところであります。

一方、地方財政全体では、個人所得の大幅な減少や企業収益の急激な悪化などにより、地方税収入や地方交付税の原資となる国税収入が引き続き落ち込む中、社会保障関係経費の自然増や公債費が高い水

準で推移することなどにより、定数削減などの行革努力に伴い給与関係経費が大幅に減少してもなお、財源不足が過去最大の規模に拡大するものと見込まれています。

こうした中、平成22年度からは、あらゆる局面で進行するグローバル化に適切に対処するとともに、積極的に打って出ていくべく、「世界に輝く『静岡』の創造」をテーマに掲げた第2次総合計画がスタートいたします。この2次総の初年度に臨むに際しては、財政の健全性の確保に留意しつつ、給与改定や定員管理による人件費の抑制、事務事業全般にわたって経費の抑制を図るとともに、事務事業の厳選の取組みを徹底して、限られた財源の重点配分を行ったところであり、今後

も、本市の着実な発展に向け、全力で取り組んでまいりたいと考えております。
貴商工会議所におかれまし

ては、質の高い会員サービスの提供や地域経済の活性化のほか、行政に依存しない自立した商工会議所を目指すとお聞きしております。

市といたしましても、両商工会議所の合併により新商工会議所の事業が合併前の商工会議所の事業に比して著しく効率的なものとなり、新商工会議所の設立が本市商工業の振興に大きく寄与することを切に願うものであります。

結びに、貴商工会議所の御発展並びに皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、新・静岡商工会議所設立へのメッセージとさせていただきます。